

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 060-0041

住 所 北海道札幌市中央区大通東三丁目1番地19

氏 名 株式会社 カナモト

代表取締役 金本 哲男 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 カナモト		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区大川町1番1号		
該当する事業者 の要件	<input type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	70	物品賃貸業
主たる事業 の内容	建設機械器具のレンタル、鉄鋼製品の販売、情報関連機器のレンタル		
事業者の規模	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		k l
	<input checked="" type="checkbox"/> 自動車の台数	241	台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	F A X 番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ～ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第 3 号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標排出量
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2023 年度)	(2024 年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 789	(実) 787	(実) 733	(実) 595	(実) 696
	(調) 789	(調) 787	(調) 733	(調) 595	(調)
削減率		(実) 0.3 %	(実) 7.1 %	(実) 24.6 %	(実) 11.8 %
		(調) 0.3 %	(調) 7.1 %	(調) 24.6 %	(調) %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位の活動量		原単位等の単位			
	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標とした値
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2023 年度)	(2024 年度)	
排出量原単位等の値					
活動量の値					
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第 1 年度	新型車両の納期遅延により旧式車両から低燃費車・ハイブリッド車への入れ替えは当初計画通りに行かず、新型コロナウイルスの流行が収束に向かったことで顧客（レンタカー貸出先）の事業活動も活発化したため、結果的に排出量削減は計画通りとは行かなかった。	
第 2 年度	依然として納期については不安定ではあるものの、ハイブリッド車が10台増車（1台減車、11台新規導入）。また、レンタカー全体の給油量も減少した為、7.1%の削減となった。なお、HV車導入が当初想定よりも進んでいるが、これは顧客要望・他社との競争力強化等が要因となる。	
第 3 年度	大幅な排出量削減となったが、車両の減車と新車納入のタイミングが合わなかったこと、車両の他地域への適正配置を行ったことにより、単純な車両台数減となり、結果的に給油量減少となったことが要因である。上記により旧式車両も減少しており、それも排出量削減に寄与している。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第 3 年度の報告時に記載)		新型コロナウイルス流行の収束や各種車両の納期遅延など、当初計画通りとはいかなかったものの、最終的に排出量削減目標は達成となったことは評価したい。
上記評価を踏まえた改善対策など (第 3 年度の報告時に記載)		継続して低燃費車・ハイブリッド車の導入を進めていくと同時に旧式車両の減車も進めていく。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全従業員を対象にエコドライブの徹底、社有車のハイブリッド車導入検討 2. 営業所内照明の交換時のLED採用 3. 積極的な再生紙の利用 4. レンタル車両への低燃費車・ハイブリッド車の導入推進
<p>第1年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全従業員を対象にエコドライブの徹底、社有車のハイブリッド車1台導入 2. 営業所内の照明のLED化実施 4. レンタル車両として低燃費車・ハイブリッド車を20台導入
<p>第2年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全従業員を対象にエコドライブの徹底 2. 営業所内の照明のLED化実施 4. レンタル車両として低燃費車・ハイブリッド車を計35台導入
<p>第3年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全従業員を対象にエコドライブの徹底 2. 営業所内の照明のLED化実施 4. レンタル車両として低燃費車・ハイブリッド車を計9台導入
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>レンタル車両の低燃費車・ハイブリッド車の入れ替えについて、第3年度は尻すぼみになってしまった印象だが、3年間で見るとかなり促進できた。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

7 基準年度からの温室効果ガスの排出の量等の推移 (3号該当者等)

(1) 自動車に係る温室効果ガスの排出量等

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
温室効果ガス排出量	789 t-CO ₂	787 t-CO ₂	733 t-CO ₂	595 t-CO ₂
車両の台数	274 台	279 台	277 台	241 台

(2) 車両の内訳

ア 車両の種別

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
普通貨物自動車	65 台	68 台	66 台	52 台
小型貨物自動車	113 台	110 台	100 台	83 台
大型バス	台	台	台	台
マイクロバス	台	台	台	台
乗用自動車	20 台	21 台	24 台	19 台
特種自動車	76 台	80 台	87 台	87 台

イ 燃料の種別

		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	最新年度 の比率
		台数	台数	台数	台数	
次世代自動車	電気自動車	台	台	台	台	- %
	プラグインハイブリッド自動車	台	台	台	台	- %
	ハイブリッド自動車	3 台	6 台	16 台	15 台	6.2 %
	燃料電池自動車	台	台	台	台	- %
	天然ガス自動車	台	台	台	台	- %
	その他	台	台	台	台	- %
低燃費車	ガソリン自動車 (上記を除く)	105 台	98 台	87 台	74 台	30.7 %
	ディーゼル自動車 (上記を除く)	111 台	118 台	121 台	110 台	45.6 %
	LPGガス車	台	台	台	台	- %
	その他 (上記を除く)	台	台	台	台	- %
上記以外		55 台	57 台	53 台	42 台	17.4 %

※ 低燃費車とは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき定められた燃費基準 (トップランナー基準) を早期達成している自動車をいう。